

市街地における土地の合理的利用をはかりながら、通勤難の緩和などを考え、住宅の促進と高層化をはかっている。



▲市・郡部でも公営住宅建設は進められている(宇土市の境目団地)



「一世帯一住宅」  
の実現を  
めざして……



▲マンモス化して行く団地(八島団地)

戦後建設された熊本県の住宅は、42年末までに約15万戸におよび、42年1年間の住宅建設は12,600戸、このうち民間の自力によるもの8,300戸、公的資金によるもの4,300戸である。県では、なおかつ不足する住宅を解消するために、「住宅建設5ヵ年計画」をたて、昭和45年までには「一世帯一住宅」の実現をはかるため努力している。

▲団地の中には広い遊園施設や緑化地帯が充実している(江津湖団地)

▲団地の一部には、土地分譲による個人住宅、建売住宅が整然と立ち並んでいる(江津湖団地)



▲急ピッチで建設される住宅団地(江津湖団地にて)